

第1回一般廃棄物最終処分場(船戸) 建設事業連絡協議会 要点記録

日 時：令和8年7月2日 19:00~20:15

場 所：胎内市産業文化会館

出席者：委員8名、新発田市2名、胎内市3名、聖籠町1名、新発田地域広域事務組合（以下、「組合」とする。）7名 計21名

1. 事務局長挨拶

委員を快諾していただいたことに感謝する。最終処分場はごみを焼却した灰を埋め立てる最終の処分場であり、暮らしに不可欠な施設である。その一方で、住民の皆様にとっては不安のある施設であると十分認識している。この協議会が住民の皆様の窓口となり、建設にあたりその不安の解消となるよう情報の共有を図って参りたいと考えている。建設までの期間ではあるがよろしくご協議をお願いします。

2. 委員の紹介 組合から紹介

配付した協議会の名簿に代える。

委員1名欠席。代理で1名出席。

3. 連絡協議会要綱について

別紙「一般廃棄物最終処分場(船戸)建設事業連絡協議会設置要綱」

組合より説明

4. 会長、副会長の選任について

会長：1名 選任

副会長：1名 選任

5. 議事

(1) 最終処分場建設事業について

別紙「一般廃棄物最終処分場基本構想 報告書【概要版】」

別紙「生活環境影響調査実施状況について」

別紙「浸出水の処理工程について」

組合より説明

質疑・応答

委員： (環境アセスメントについて)つつじが丘地内の現状の土壌・大気質がどのような状況かを調べておいて施設が稼働したときにどのように変化したのかを後追いできるようにしておいてほしい。つつじが丘の場合、境界付近で

降下ばいじんの測定を行うことになっているが、町内の中心であるさくら公園で調査を行ってほしい。

組合： 今回の生活環境影響調査について、つつじが丘地区においては処分場の建設によって生じる影響が地区の中で一番大きいと考えられる、距離的に処分場予定地に最も近い地区の境界部で測定させていただいた経緯がある。地区の中心部で測定を希望したいとお話であったが、境界部に比べて、最終処分場から距離が遠くなるので数値は低下すると考えられるが理由を説明願う。

委員： 住民の生活に一番密接している場所で測定するのがよいのではないか。さくら公園には地域の子どもも集まるので影響が心配である。

会長： さくら公園では地盤、表面土壌の調査はしていないのか。

委員： 道路に落ちた泥が風の影響で町内に降りかかるような可能性がある。それによってどういう変化があるのか見極めたい。子どもへの影響が一番心配。生活しているところで測るのがよい。楡形のゴルフ場についても薬品を使うので流れている水質について毎年検査結果の報告を受けている。環境に影響を与えかねない物質を含んでいるものの変遷については把握する必要があるのではと考えている。

組合： 現在、お示しさせていただいたポイントで生活環境影響調査を実施している。数値、予測分析等の報告が上がってくるため、まずその結果を待ち確認させていただきたい。皆様にも結果について確認させていただきたい。心配される気持ちも理解できるので、それを踏まえていかにすればご心配に対応できるか検討させていただきたい。

委員： 分析調査を毎年実施してその結果を報告していただくことだと思う。変化してなければよいし、悪い方向に影響ありとなれば、原因を追及しなくてはいけないと思う。

会長： 周りの地区についてはいかがか。

委員： 私たちはペーパーの数字を見てもわからない。何を望むかと言われれば、これは安全なのかという資料を出してもらいたい。例えば、ゴルフ場については、初めは水質調査をして報告するといったがしていない。安心して暮らすには毎年報告してもらいたい。

組合： 調査のポイントの考え方、時期、生活環境調査の結果分析を踏まえて検討させていただきたい。

委員： 臭気について、処分場がどのような臭いを持つのか分からない。牛小屋が近くにあるが、風向きにより臭いがする。最終処分場はどの程度臭いがするものか。分からないので気にかかるところだ。

会長： 焼却灰であれば臭いはないのではないかと。粉じんのほうが問題ではないか。

委員： 知り合いのダンプの運転手に聞くとどうしても砂は道路には落ちるものと聞いた。灰を固めて運んだりできればよいのだが。

会長： 焼却残渣を持ってくる車は決まっているのか。

組合： 専用車両があり、あおりを閉じて運んでくる。灰も湿っていて風で飛ばうようなものではない。

委員： 飛ばないとはいうが、完全なものではないと思うので心配している。

会長： 現在の処分場付近でこのような問題はおきているか。

組合： 私は 10 年ほど現在の広域エコパークを管理しているが、今まで臭いや粉じんについて苦情はない。

委員： 現在でも大雨が降ると地区内の特定のポイントに水がたまる。処分場の浸出水を下水道に流す計画であるとはいうものの、調整池が大雨であふれたらどうするのか。小国谷の川も溢れた場合どうなるのかシミュレーションはしているのか。

組合： 基本構想ということで先ほど説明させていただいたが、現在、設計で詳細な検討を進めているところだ。次回集まっていただく時には配置も含めて能力的なところも説明させていただきたい。地質調査のなかで地盤の良し悪しもあり、基本構想の通りにはならない。最終処分場の開発によって懸念される水についてはご心配いただかなくてよいよう過去の最大降水量等を計算反映している。

委員： 下水道に流すのだから安全とは言い切れない。

組合： 最終処分場が出来る前であったとしても河川が溢水しているということはその河川の下流域の整備がまだなのではないかという心配がある。胎内市の方から下流河川の整備計画の進捗状況についてご説明いただけると安心できるのでは。

胎内市： そちらの事案について承知していないので次の協議会にお示ししたい。

委員： 水路の不備についてはよく見てもらって改修が必要であれば改修してもらって川に流れるようにしてもらえばよい。越水したとしても対策がされていれば水が集落の方にはいかないはず。処分場の建設問題とはまた別の次元の問題ではないか。

水質の件で、今回は下水道に放流すると、川に流すよりも、下水道法にあてはまればよい、設備的に軽減できるという話を聞いた。実際に放流する場合、放流水質は基準に比べてどういうレベルまで処理するのか。そこは決して下水に流すから多少基準に緩めてもいいよということではなくて、万が一下水が流れなくてあふれ出た場合でも大丈夫ですよというのでやってほしいと以前もお話させていただいた。そこは決して下水に流すからいいという感覚ではなくて万が一流れても問題ないレベルまでもっていくというのを考えてほしい。設備的、予算的に軽減できる抑えたい気持ちは分かるがそれだけではないというのが安心安全だ。削るところは削ってもらって構わないが絶対に削ってはいけないところもある。環境影響調査について下水道放流のため、水質は除くとあるが、下水に流すからなにもしなくてよいのか。もし何かあった場合、現状がどうなのか把握しておかないと、調べておかないと、もしなにかあっても説明できない。下水道に通すからやらないよというのではなく、水質もやっておいの方が良いと思うが。

組合： 現在エコパークで放流している水質は、代表的な汚れの指数であるBODでいうと1ケタ台であり、浮遊物質質量であるSSについても1ケタ台だ。国の排水の基準はBOD60、浮遊物質質量も60となっている。処理前の水でもほぼ基準に達している数字にはなっているが、そこにさらに処理をして放流している。

委員： 計画の値についても問題ないか。単純に考えて実際に川に流しても問題ない水準か。

組合： 基本的には問題ないレベルである。

- 委員： アルカリ凝集処理後の汚泥は処理工程の図で埋めることになっているが、成分はどのようなものか。中性か。
- 組合： アルカリ凝集処理をしているので灰に含まれているカルシウム除去がメインになる。それプラス浮遊物質を固めたものを埋立地に戻すということであり中性だ。
- 委員： 汚泥について鉛やカドミウムなどの有害物質が入っていないか分析はしているのか。
- 組合： 汚泥について調査はしていないが、処理前の水は有害物質を測定しておりすべて未検出である。よって、汚泥には入らない。
- 委員： 脱水処理する前の水に入っていないということは汚泥にも入っていないということでしょうか。
- 組合： その通りだ。鉛は焼却場の灰でも分析しているが、有害物質の出ないものを最終処分場にもってきている。
- 委員： 昔の処分場跡地(村上市)から有害物質が出たという報道がある。当時は検査しなかったからで今はあり得ないということか。
- 組合： 昔は昔であり、今は一切ない。

(2) その他

組合より提案

次回の連絡協議会について来月お盆前に開催したい。

最初は報告事項が多く短い期間での開催となり申し訳ない。その後は間隔をあけて開催させていただきたい。

質疑・応答

- 委員： 協議会の開催する頻度は決まっていないのか。
- 組合： 開催日程について決定しているものはない。設計が決まってくる段階のため、次回は短い期間での開催をさせていただきたいと考えている。来年、再来年度については年に1回もしくは、2回程度と考えている。

委員： 本日の議事録は出るのか。

組合： 要点記録をまとめさせていただく。会長・副会長に内容を確認いただき、各地区の方に渡すので住民の皆さんとこの協議会で議論されていることの共有をお願いしたい。